

研究主題

各教科等の特質に応じた学びの本質に迫る授業の創造

～仲間とともにしかかわる対象に焦点を当てて～

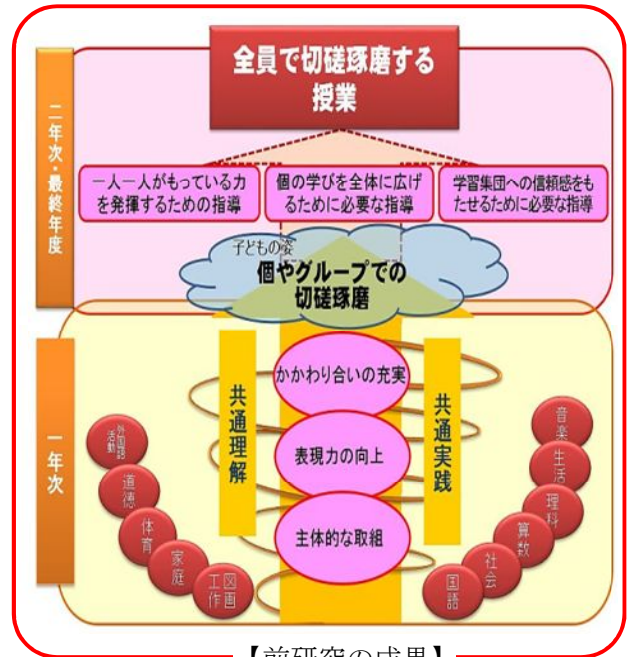
1 研究主題について

前研究の成果と課題

これまで、2か年計画で、「仲間同士が、同じ目的に向かって影響し合いながら向上し続ける姿」を「切磋琢磨する子どもの姿」として捉え、「全員で切磋琢磨する授業」をめざし、授業実践を行ってきた。

そのなかで、「学習への主体的な取組」や「仲間とのかかわり合いの充実」「表現力の向上」等、様々な成果が見られるようになった。また、そのためには、「一人一人が持っている力を発揮するため」「個の学びを全体に広げるため」「学習集団への信頼感をもたせるため」に必要な指導について、全職員が共通理解・共通実践していくことの大切さに気付くことができた。

上述の成果を全職員で共有している最中、「主体的・対話的で深い学び」が授業改善の視点として示され、その実現に向けた取組が重視されるようになった。そこで、この視点を基に、前研究を見つめ直すと、以下のような疑問にも似た課題が見えてきた。



【前研究の成果】

課題

主体的・対話的であったが、深い学びという視点ではどうであったか。

つまり、「主体的であり、対話的である授業」の実現へと向かいはじめたという手応えを感じつつも、「深い学びのある授業」には辿り着けていなかったのではないかという課題が残ったのである。

切磋琢磨から「深い学び」へと辿り着くために

では、なぜ、「深い学びのある授業」には辿り着けていなかったのだろうか。昨年度までの研究を整理していくと、以下のような要因が見えてきた。

要因

各教科等の特質に応じるという視点が重視されていなかったのではないか。

これは、これまでの授業実践において、各教科等の立場から「切磋琢磨する子どもの育成」をめざしてきたからこそその要因であるともいえる。なぜなら、各教科等研究部の立場から、全職員が共通理解・共通実践していくものを見出そうとしてきたからである。もちろん、そこには、各教科等の目標に迫るための手立てがあり、考えがあった。前研究の成果をふまえ、さらに一步前進していくためには、「各教科等ならでは」、つまり、各教科等の特質に応じるという視点を重視していく必要があるのではないかということである。

「主体的・対話的で深い学び」とは

各教科等の特質に応じるという視点を重視することで、前研究の課題である「深い学びのある授業」に辿り着くことができるのではないかと考えているが、そもそも「深い学びのある授業」とは何か、「小学校学習指導要領解説 総則編（平成29年6月）」には、「主体的・対話的で深い学び」について、次のように示されている。

- ・ 学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しをもって粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる「主体的な学び」
- ・ 子供同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深める「対話的な学び」
- ・ 習得・活用・探究という学びの過程の中で、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだし解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう「深い学び」

また、同解説においては、「各教科等の学びの深まりの鍵となるのが『見方・考え方』である」とし、「見方・考え方」は「各教科等の特質に応じた物事を捉える視点や考え方である」としている。

このことから、今後の研究課題として、各教科等の特質に応じることが重視すべき視点であるといえるが、上記の「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」のそれぞれは、分けて考えるべきものではない。それぞれが1単位時間、または、単元や題材等の内容のまとまりをとおして実現されていくものである。

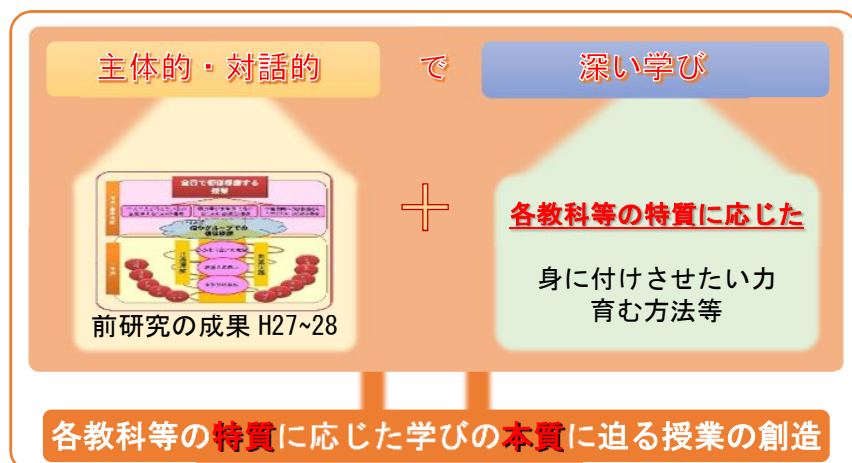
「各教科等の特質に応じる」先にあるものとは

各教科等の特質に応じるという視点を重視し、授業実践を積み上げていくことで見えてくるもの、それは、「各教科等の特質に応じた学びの本質」であると考えられる。すべての教育研究は、「学びの本質」を探り、追い求めるためにあるともいえるが、それが何なのかということについての答えは明確にもつことができていないのではないだろうか。そのような現状のなか、前研究において見出してきた成果に、各教科等の特質に応じるという視点を加えることで、その答えを探っていききたい。

「各教科等の特質に応じた学びの本質」、それは、前研究の成果をふまえ、各教科等の特質に応じた、子どもに身に付けさせたい力、身に付けさせるべき力は何なのか、それらを育む方法等を探っていくなかで見えてくるものであると考える。「主体的・対話的で深い学び」の実現に向かうことが求められている今だからこそ、この「各教科等の特質に応じた学びの本質」に迫る研究を進めていきたい。

「主体的・対話的で深い学び」の視点から見た前研究と本研究の関係

上述のことをふまえ、前研究と本研究の関係を整理すると次のようになる。



本年度は、研究の初年度として、前研究をふまえたうえで、各教科等の特質に応じた学びの本質を探りながら、子どもの力を高めていく研究とする。

前研究をふまえることは、本研究における必要最低条件ともいえる。主体的・対話的な授業であってこそ、各教科等の特質に応じた学びの本質に迫る、深い学びのある授業があると考えられる。

2 副題について

前研究では、特に、「仲間とのかかわり」を視点とした授業実践を行ってきた。前研究における仲間とは、切磋琢磨し合う、または、切磋琢磨し続ける学級の集団のことであり、かかわりの主軸となるものであった。しかし、かかわる「対象」は仲間だけにとどまらない。教師、教材、事象、場、社会、自分自身等、その対象は、教科等の特質や授業内容等により様々である。



本研究においては、「仲間とのかかわり」という視点に加え、どのような対象に、どのようにしてかかわらせることが各教科等の本質に迫るうえで有効であるかといった視点で授業づくりを見直していく。切磋琢磨しながら対象にかかわること、つまり、仲間とともに対象により深くかかわることを主軸とした授業を展開していくことで、「各教科等の特質に応じた学びの本質」に迫ることができるのではないかと考える。



3 研究の仮説について

各教科等研究部において、「各教科等の特質に応じた学びの本質」を明確にし、仲間とともに対象にかかわっていく学習指導を工夫していけば、いわゆる「主体的・対話的で深い学び」を実現することができ、子どもの力を高めていくことができるであろう。

4 研究計画について

年次	研究内容
1年次	<ul style="list-style-type: none">○ 各教科等の学びの本質とは○ 各教科等の学びの本質に迫る学習指導の工夫
2年次	<ul style="list-style-type: none">○ 各教科等の学びの本質に迫るための学習指導の在り方
3年次	<ul style="list-style-type: none">○ 各教科等の学びの本質に迫る授業の展開



5 各教科等における研究テーマ及び研究内容について

教科等名	研究テーマ	研究内容
国語科	言葉に向き合いながら 学びを実感する子どもの育成	1 言葉に向き合っていくための学習指導の在り方 (1) 問題意識や目的意識を持続させる単元構成の工夫 (2) 価値ある言語活動の工夫 2 学びを実感させるふりかえりの在り方 (1) 「何が身に付いたか」をふりかえらせる手立て
社会科	社会へのかかわり方を 選択・判断できる子どもの育成	1 「問い」が生まれてくる資料提示の工夫 2 多角的に考察させるための発問の工夫
算数科	算数を「つなげる広げる」子ども、 算数で「つながる広がる」 子どもの育成	1 習熟の時間の在り方 2 数学的な見方・考え方を働かせるための問いの在り方
理科	理科の見方・考え方を働かせ、 科学的な見方や考え方に高める 子どもの育成	1 問題解決の各場面でのふりかえり 2 理科の見方・考え方を働かせるための、文脈を設定した授業展開
生活科	身近な生活にかかわる 見方・考え方を生かし、 思いを広げていく子どもの育成	1 子どもが活動に熱中し、思いが広がっていく単元構成の工夫 2 身近な生活にかかわる見方・考え方を生かす手立て
音楽科	主体的に音楽と向き合い、 豊かな表現をめざす子どもの育成	1 音楽との出合わせ方の工夫 2 音楽的な見方・考え方を働かせるための工夫
図画工作科	ぼくだから、わたしだから つくりだせるものを 探求する子どもの育成	1 造形的な見方・考え方を働かせるための手立て (1) 造形的な視点について「気付く・分かる・理解する」ための手立て (2) 質感を重視した題材の開発 2 表現を探求し続ける意欲を高める教師の働きかけ
家庭科	生活をよりよくしようと 工夫する子どもの育成	1 生活のなかから問題を見出し、課題を解決するための指導の在り方 2 自分の生活に合わせてよりよい方法を選択・判断するための指導の在り方
体育科	身体を磨き続ける子どもの育成	1 自分の身体のことをよく知る授業の創造 (1) 自分の身体で知る手立て (2) 仲間の身体から知る手立て (3) 身体を介さずに知る手立て
道徳科	今を見つめ、 未来へと向かう子どもの育成	1 今を見つめ納得解を得させる工夫 (1) 教材に含まれる道徳的諸価値と仕掛けの明確化 (2) 納得解を得させる過程の仕掛けの工夫 2 今を今後へと結び付けていくための工夫
外国語活動	積極的にコミュニケーションを 図ろうとする子どもの育成	1 コミュニケーション能力の素地の育成を図る「読む」「書く」活動を取り入れた指導の在り方 2 外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせるための手立て